

米FRBは0.5%の緊急利下げ – 新型肺炎ウイルス（COVID-19）感染拡大受け

- 米FRBは0.5%の緊急利下げ。政策金利レンジを1.0-1.25%に
- 市場の反応は冷やか。追加利下げを要求か？
- 米個人消費への悪影響を心配し始めた可能性も

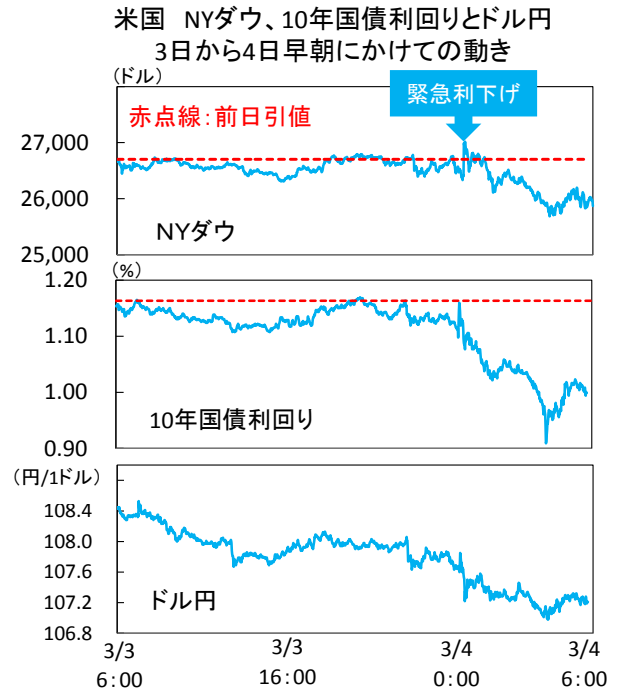
■ 米FRB緊急利下げ、しかし市場の反応は冷やか

米FRB（連邦準備理事会）は3日、政策金利を0.5%引き下げレンジを1.0-1.25%としました。今回の定例会合での利下げは、2008年世界同時金融危機時来となる異例の緊急対応でしたが市場の反応は冷やかでした（図1）。直後の米株は急騰も、30分後には前日比マイナス圏に沈みました。他方、10年国債利回りは一時史上最低の0.9043%をつけ、ドル円は\$1=107円割れを窺いました。金融市場は今回の利下げでは不十分との評価、そして新たにCOVID-19の米本格上陸を受け、自国景気への心配をし始めた様にも感じます。

■ いよいよ米個人消費への影響が懸念材料に

世界の金融市場が反転する条件は、新型肺炎ウイルス感染拡大への歯止め（図2）や追加的な金融・財政緩和に加え、世界GDPの約2割を占める米個人消費（図3）が供給制約により減速しない事も新たに加わったとみています。想定以上の長期戦への覚悟が必要となりそうです。（徳岡）

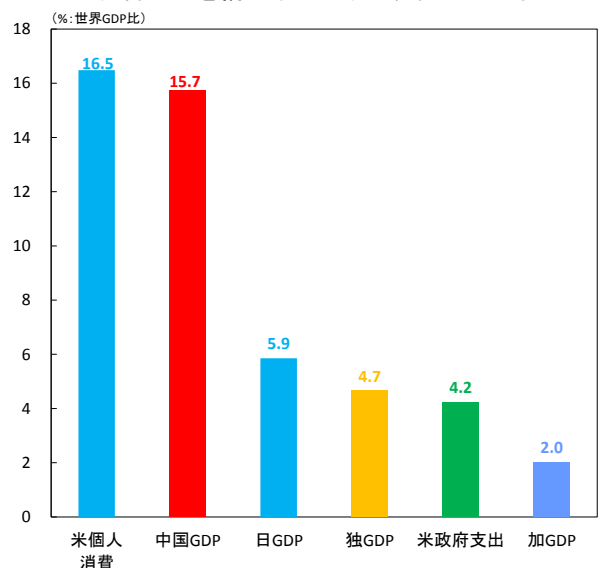
【図1】FRBの緊急利下げでも不十分？



出所) Bloombergより当社経済調査室作成

【図3】世界最大の需要者が脅かされる恐れを心配し始めたか？

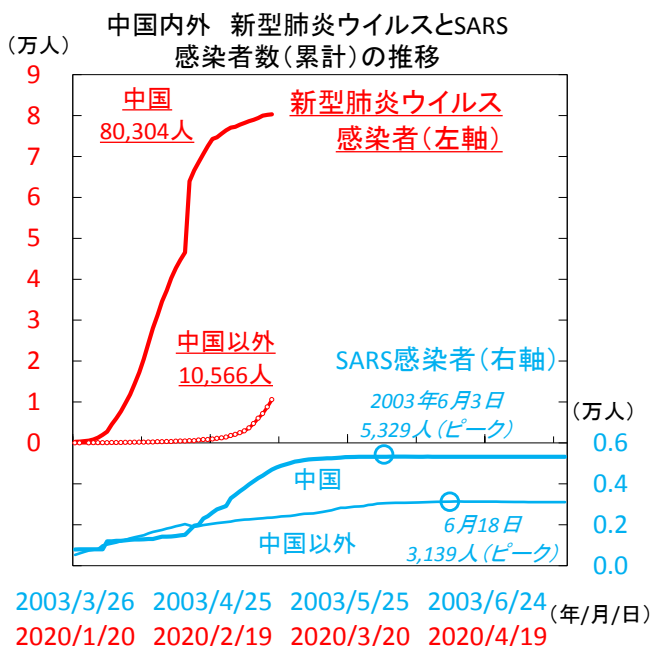
世界GDPを構成する上位6項目(2018年)



注) 世界、及び各国GDPはIMF（国際通貨基金）、米個人消費、政府支出はBureau of Economic Analysis（BEA）より当社経済調査室が試算。

出所) IMF、BEAより当社経済調査室作成

【図2】SARS感染者数は表面化から3ヵ月程度でピークに



注) SARS: 重症急性呼吸器症候群。
データはSARS感染者が2003年3月26日～7月11日、
新型肺炎ウイルス感染者が2020年1月20日～3月3日（すべて日次）。
SARS感染者数は中国および中国以外のピークを表記。
なお新型肺炎ウイルスは2月13日の判定基準見直しで感染者数が急増。

出所) WHO（世界保健機構）、CEICより当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会